

「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて

非常勤講師 平松靖一郎

私は、今、聴覚障害者福祉の向上に取り組んでいます。専攻科福祉専攻の授業では、開設当時から、様々な行事に関わらせていただきました。その分、沢山の思い出があります。また、私の聴覚障害者福祉に取り組む思いや考え方に変化を与えてくれる、素敵な出会いや体験がありました。

私が「手話」に出会ったのは、本学に在学する難聴学生を支援したいという学生が学生課に相談に来てくれたことがきっかけです。それまで、意識したことなかった「絵」や「文字」による情報の大切さ、「音声」中心で提供される情報の多さなど、意識したことなければ、気付きもしませんでした。

しかし、その学生との出会いがきっかけで、「福祉」って何だろう。「自分にもできることがあるのではないか。」と考えるようになりました。そう考えるようになった頃に「手話」と出会い、「手話」を学び始め、「福祉」を学び始めました。そして、ほどなく、豊橋創造大学短期大学部に専攻科福祉専攻が開設されることになり、以来、多くの専攻科福祉専攻の学生と関わらせていただきました。

まちのボランティア講座に通うと、「福祉(ふくし)」は、「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにするために、アイデアを出し合ったり、手や足を使って汗をかいたりして、『生活を良くしよう、困ったことを解決しよう』とする活動です。と聞いたことがある人もいないのでしょうか。「聴きたくても聴こえない!」「伝えたくても聞こうとしてくれない!」「伝えようとする気持ちを示してもらえない!」。大規模災害が発生する度に、こうした声を耳にします。私たち一人ひとりが「気付くこと」「気を配ること」で世の中は、変わっていきます。誰もが、「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにするために、その一歩が踏み出せる人が増えていけば良いと思って活動しています。

私にとって専攻科福祉専攻は、「障害の理解」や「コミュニケーション支援技術」の授業を通じて、こうした「福祉(ふくし)」の心を育む学生を目の当たりにする機会を与えてくれました。医療・福祉・介護の仕事は、尊いものだと思います。また、福祉活動も終わりは有りません。関わり続ける限り、私たち自身も成長させてくれます。

専攻科福祉専攻の卒業生は、これからも、私たちの仲間です。私たちが「生」ある限り、これからも一緒に「福祉(ふくし)」の心を実現していけることを願いとして、皆さんに yell(エール)贈りたいと思います。